



冬来たりなば、春遠からじ

「西風への頌歌」(パーシー・ビッシュ・シェリー) より

副校長 白倉輝満

今冬は、突然の大雪や長雨もあり、とても寒く、通学にも細心の注意が必要でした。この数日はようやく暖かくなりはじめ、春の訪れを感じられるようになりました。校庭にも、多くの草木が芽吹き始めています。生徒の皆さんは、冬の間にも体調に気を付けつつ、それぞれの夢に向かって、自分なりに最大限の工夫を重ねて、一人残らず全員が大きく成長しています。

厳冬ではありましたが、色とりどりの鮮やかな花が咲き、蝶も飛び交う暖かくウキウキする季節はもうすぐそこです。生徒の皆さんも、新しい環境で新たな自分を発見できる、嬉しい時間になることでしょう。

さて、今目の前で咲く花や飛ぶ蝶は、急に開花したり、美しい蝶になったりしたわけではありません。長い冬の間、雪の下や地中・葉の裏などで、誰かに見られたり、褒められたりしてもらえず、時には枯れてしまった部分があっても、自分の花が咲くまで、羽ばたく瞬間まで、少しずつ栄養を蓄え、自分に合わせた方法で自分自身を成長させてきたのです。

私たち人間は、草花や昆虫より複雑な社会性を持っていると言われています。なので、一年ごとに成果が出せるものもあれば、数年、あるいは数十年かけてより大きな成果が出せるようになるものもあります。季節の移ろいとは連動せず、春になったからといってもまだ花が咲かない場合も多々あるのです。人生の開花時期は人それぞれだから、準備の方法や段階も人とは違っていても当然です。なので、人と違うことに悩むより、自分の花を開花させるために大切なことは何かについて悩んだり、こだわったりすることの方がずっと大切だと思います。そうして咲いた花は、きっと誰もまねできない、世界でたった一つのすてきな花になることは間違いないと思います。

